

一般社団法人つながり探究所 2023 年度活動報告

2024 年 5 月 31 日

(1)活動実績

- ・活動回数 175回
- ・参加者総数 子ども 5,255 人 大人 4,043 人 合計 9,298 人
- ・スタッフ登録人数 23 人 ・スタッフ延べ活動人数 1,019 人

(2)寄付支援(順不同)

認定 NPO 法人フードバンク愛知 認定 NPO 法人セカンドハーベスト名古屋 認定 NPO 法人むすびえ 一般社団法人全国食支援活動協力会 守山区社会福祉協議会 あいち子ども食堂ネットワーク 愛知子ども食堂応援ステーション 志段味図書館 守山図書館 小林様 オアシスマルハン 大橋様 加藤様 餃子の王将 つなしょ会員のみなさま

(3)助成実績(順不同)

・第7回ファミリーマートむすびえ ・愛知県子ども食堂食材費高騰対策 ・名古屋市子ども食堂運営補助金 ・トナミホールディングス ・愛知県自立支援体制確保対策事業費補助金 ・愛知県子ども食堂推進補助金(学習支援) ・中央共同募金会 居場所を失った人への緊急活動応援助成第6回 ・子ども家庭庁ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業(むすびえ) ・名古屋市社協こども未来応援事業 ・愛知県2023下半期子ども食堂食材費高騰対策 ・篠原 欣子記念財団 ・農林水産省フードバンク補助金 第2期 ・子ども家庭庁ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業(フードバンク愛知)

(4)各事業報告

- ・子ども食堂「つな食堂」 開催数 11回 参加者数 840人
スタッフ60人 大人 260人 大人260人 子ども 580人

毎月自然栽培野菜の提供を受け、調理した総菜をオードブルにして、20世帯に提供しました。野菜の情報が届く→献立を決めて野菜を依頼→前日下準備→当日調理 という流れで実施しました。自宅で、のんびり会話しながら楽しんでもらう話題作りに、ちょっと変わった野菜で料理しています。また、終業式には会食形式にして、子ども達ががんばったことに対するおつかれさま会として子ども食堂を開いています。楽しみにして、友だちと待ち合わせて参加している姿を見ると、コロナの頃の不甲斐なさも吹き飛びました。

・つなしょ 開催数 152回 参加者数 4,949人
大人2,448人 子ども2,388人 スタッフ712人

放課後の居場所として浸透しているつなしょには、連日子ども達が集まってきます。今年度は、小幡北小2年生の町探検の一つに選ばれて、子ども達がワクワクした様子でやってきました。初めてのお菓子OKでの遠足に子どもたちは戸惑ってました。お菓子をどうして持って行っていいのか？コロナで遠足すらなかったので、不思議だったようです。つなしょのお菓子を買って、遠足に行った子どもたちからのうれしそうな声を聞きました。日常に戻っていて、アーケードの下では子ども達が自由に遊び、部屋の中では小さな子がおもちゃで遊ぶ。平和で幸せな時間をこれからも守りたいと思っています。

これまで、スタッフとして来てくれていた林建太君が大学を卒業して、新生活を送るためつなしょを卒業しました。5月からは、高校生のスタッフが3人入りました。今後増えていくでしょう。つなしょを継続していくことは、社会的なインフラの一つを守ることであると考えています。「どなたでもどうぞ」の気持ちを忘れずに、本当に必要な時は支援につながるような関係性をこれからも作っていきたいと思っています。

・おもちゃ図書館「つなとしょ」 開催数 12回 スタッフ60人
参加者数334人 大人160人 子ども174人

志段味図書館の2階をお借りして、おもちゃ図書館を月に1度開催。ハイハイだった子が、歩けるようになっていたり、話せるようになっていたり。子どもたちの成長を感じながらおもちゃ図書館を開催しています。電池の消耗が早いことや、おもちゃのパーツが他のおもちゃにまぎれるなど、整理が必要なことから3月4月はおもちゃの貸し出しをやめて、遊びのみにしました。それでも多くの小さな子が遊びに来ています。親の居場所にもなっているようで、穏やかな時間が流れています。つなしょのPRの場にもなっていて、興味を持ってくれる方も多くなりました。

・フードパントリー「食べ物おすそ分けの会」

受け入れ9884kg 配布4781kg 回数152回 支援団体数16回
スタッフ157人

今年度から、会員証として守山作業所でキーホルダーを注文して、トートバッグにつけてもらうことで会員更新したと認識できるようにしました。そのため、既存のトートバックを継続して使うことになりました。志段味図書館にてフードドライブで集めた食材を、つなしょへ寄付していただいております。生活困窮者の方へ食材提供することができています。また、割りばしや自宅で使わない物品の寄付が会員の方から集まっており、リサイクル・リユースの仕組みが生まれています。ひとり親家庭等の方には、自己申告制にて毎月食材を渡すことになりました。また、定期受け取りの団体もあり、本地住宅へはコミュニティサロン「ふれ

んず」への食材支援を行っており、フードパントリーの助言をしています。

・生活困窮者、外国人支援 支援件数 340 件 個別相談人数 35 人

外国籍であり、日本でがんばって生活している家庭には、みなさんから集まった洋服やおむつなどを渡すことができます。産後の家族には、出産祝いとして洋服や生活用品をプレゼントしました。また、ウクライナ避難民の方達へは、NPO法人レスキューストックヤードの協力を得て、ウクライナの食文化に合わせた食材を提供しました。これまで支援してきたパレスチナ人夫婦が名古屋市から京都へ引っ越しをしました。京都の情報や、NPOを設立したいという意向を聞き、京都市市民活動総合センターに情報提供を行い、彼らの日本での暮らしが安定できるように、サポートしました。

つなしょには、生活困窮で食材の相談に来る事例が増えています。これまで、行政とのつながりがなく、孤立している世帯について、守山区重層的相談支援事業と連携して、情報交換の場を作り、関係機関が集まり今後の支援の方法について相談するなど、個別の支援に向けて支援の輪が広がっています。

・小幡緑地まつり 12月 9日開催 来場者数 2,800 人 大人 800 人 子ども 2000 人
スタッフ 30 人

わやくちゃサミット&小幡緑地まつりを小幡緑地本園にて今年度も開催することができました。実行委員会方式にて行い、オバッタバッタヤネルの場所をわやくちゃサミット会場として開催しました。各キャビンを各団体が活用して、それぞれのブースを出店しました。つなしょは、駄菓子とお抹茶体験会を行いました。お抹茶体験は、参加する子どもたちにとっても好評でした。事前の準備でスタッフ同士の交流もあり、これまで別々に活動していた人たち同士の会話も生まれました。手伝う子どももいて、引っ込み思案の子が一日駄菓子屋のレジを行い、とても充実した表情のわが子の顔を見て親が号泣するなど、子どものやりがいにもつながる時間となりました。天候にも恵まれ、大勢の方の参加があり、他の団体さんとの交流の機会にもなりました。助成金の関係などから、わやくちゃサミットという名前での運営の継続は未定となりますが、小幡緑地まつりとしての開催に出店する意向は変わらず行っていきます。

(5)全体を通して

今年もとても充実した一年となりました。コロナ収束後、様々な制限もなくなり、どの世代も自由に交流ができるようになった一方で、孤独や孤立して悩みを抱えている方が増え続けています。今年度から、名古屋市区社会福祉協議会において、重層的相談支援モデル整備事業が始まり、緑が丘住宅内に「いっぽ」がオープン。名古屋市住宅供給公社と守山区社会福祉協

議会と相談を重ねて、つなしょの倉庫も用意していただけることになり、12月からつなしょの荷物を倉庫に搬入し、子ども達が遊べる空間を作りました。子ども達が遊べる場所ができたことで、元のつなしょの様子が戻ってきました。しかし、4年間という歳月は、大きく世の中を変化させています。つなしょのビジョンを再確認して、会員の方や参加者の方に浸透していく必要があります。また、生活困窮の相談が増えています。食のセーフティネットとして、つなしょへ連絡する方があります。そういう方の中には、レトルト食品すら調理方法がわからない方もいました。重層的相談支援事業や障がい者相談支援事業所等と連携して、食材の調理方法を教えたりする機会が必要と感じます。

2024年3月から、休眠預金助成事業から支援を受け、食で支える支援を始めたい団体への中間支援を始めることになりました。「まだ始めたばかりだけど、どうしたらよいかわからない」という団体さんからの相談を受けています。また、相談支援事業者等からの相談事例や、相談支援事業所と連携した事例もあります。私たちが行っている支援は、必要としている方があります。必ず誰かの役に立っていると信じて、今後も参加した方の声を聴き、運営していきたいと思えます。